

情報解禁日：2026年2月18日（水）午前2時

2026年Shimano Trail Born Fundプログラム、国内展開へ 兵庫県神戸市と大阪府箕面市の2フィールドを新たに採択



Trail Born Fundプログラムは2024年の発足以来、世界各地でマウンテンバイクのトレイル造成や擁護活動を支援してきました。2026年、国内では初めて兵庫県と大阪府の2地域が選定され、持続可能なフィールドの維持・整備に向けた支援が開始されます。

本プログラムは、世界各地のトレイルインフラや管理運営団体に10年間で総額1,000万ドル（約15億円）の資金を直接支援するものです。競技や選手ではなくフィールド自体が対象の支援は国内で事例がまだ少なく、森林利用においては行政と地域の連携が不可欠です。この取り組みは、行政、運営団体、企業が初期段階から協働している点が特徴です。

兵庫県神戸市「マウンテンバイクフォレスト神戸」

神戸市では都市部から山間部へのアクセスの良さを活かし、2023年に六甲山の自然環境を活用し、来街者の増加を目指す「神戸登山プロジェクト」を始動。翌年には、マウンテンバイクがその新たなコンテンツに加わり、市が保有する公園を拠点にNPO団体・神戸エリアマウンテンバイク協会がフィールドの造成を進めてきました。森林再生とアウトドア利用の両立を目的に、行政・NPO・企業の三者が連携し、各々の役割を分担しながらトレイルネットワークやフィールドのモデルを構築。カナダBC州の先進事例の視察に加え、国内フィールドの知見も参考にしながら、地域に即した長期モデルの形成を図っています。

2025年には初級トレイルが完成。今後は中級・上級コースの拡張、パンプトラック造成、レンタルバイクサービスの提供を段階的に進め、未経験者でも参加しやすいフィールドを整えていく方針です。また、トレイルビルドの公開イベントを設け、ライダーと地域住民が整備作業に関わる機会を通してコミュニティ形成も進めています。



大阪府箕面市「箕面とどろみMTBフィールド」

箕面市では、箕面マウンテンバイク友の会が2012年より、山林整備による地域貢献、マウンテンバイクの普及、フィールド整備・維持管理の三本柱で活動を続けてきました。現在の会員数は約300名。清掃や植樹などの地域活動にも積極的に参加し、地域との信頼関係を築いてきたことが行政との協働に発展しました。2021年からは箕面市の協力の下、止々呂美地区の山林を借り受け、会員制フィールドを造成開始。放置林の再生と環境保全を目的としながら、将来的にはフィールドの公開を目指しています。

トレイルは既存の山道を利用せず、会員自らの手で一から造成され、現在は7本が完成。現在の開放日は2ヶ月に1回で、今後は実施回数を増やす予定です。拠点の「ハブスクエア」は、道具の保管以外にイベント時の出店エリアとしても利用できます。今後は、初めての方もマウンテンバイクを楽しんでいただけるよう、レンタルバイクの設置も計画されています。



本プロジェクトの意義

大阪府堺市のシマノ本社に近く、社員にとっても身近な神戸・箕面エリアを国内におけるモデルケースとして支援対象に選定しました。弊社は「自転車文化の創造」を理念に掲げ、競技に限らず、生涯にわたり楽しめる環境づくりこそが、日本のマウンテンバイク文化を支える土台になると考えています。今回の事例をその第一歩として、今後は他地域への展開も視野に、継続的な支援を行ってまいります。

数字で見るTrail Born

2024年の発足以来、Trail Born Fundプログラムは以下を達成：

- 世界18箇所のトレイル建設プロジェクトへの支援
- 総延長78kmのトレイル建設に資金を提供
- 総敷地面積約1,400平米のパンプトラック建設に貢献
- 2026年は各国のトレイル運営団体から45件の支援申請を受け、19件を採択：
 - アジア：韓国、インドネシア
 - 中南米：ブラジル、メキシコ
 - ヨーロッパ：フランス、ノルウェー、イタリア、イギリス
 - 北米：カリフォルニア州、オレゴン州、バーモント州、カナダ・ケベック州



トレイルおよびコミュニティへの長期的なコミットメント

Trail Born Fundプログラムは、各地域における持続可能なトレイル運営モデルの構築を支援し、地域とともにマウンテンバイク文化を育てていく取り組みです。日本においてもこの支援を通じ、次世代へ継承される環境づくりを推進していきます。

既存および今後のプロジェクトや本プログラムについて詳しくは、<https://bike.shimano.com/ja-JP/trailborn.html>をご覧ください。
